

県外派遣報告書

審判員名	小原 宏太	所属	高体連
大会名	平成29年度 全国高体連審判研修会及び全国高等学校総合体育大会		
期間	平成29年7月24日(月)～29日(土)		
会場	あづま総合体育館、国体記念体育館、福島成蹊高等学校		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
7月24日	第58回全国高体連審判研修会開講式	あづま総合体育館	
7月25日	班別トレーニング、モデルゲーム、講義	あづま総合体育館	
7月26日	班別トレーニング、モデルゲーム、閉講式	国体記念体育館	
7月27日	審判会議	エルティ ウェディング	
7月28日	1回戦 県立高松商業一飛龍	あづま総合体育館	
7月29日	2回戦 柴田女子一開志国際	福島成蹊高等学校	
研修会開講式 班別ミーティング 内容			
【開講式】			
<p>「判定力の向上に向けて」～ガイドラインと2POメカニクスの共通理解～というテーマで、講師の佐藤誠氏より全体講義がおこなわれた。Ⅰ)研修会・本大会に臨むにあたっての心構え Ⅱ)ガイドラインについて Ⅲ)情報交換や試合の振り返りの予定などについての話がおこなわれた。</p> <p>全体講義後に班別ミーティングがおこなわれ、担当講師の方(平原氏、岩木氏)からの挨拶の後、各自の自己紹介と現在の課題について話し合いがされた。</p>			
モデルゲーム			
担当試合	期 日	7月25日	男子
	対戦カード	中部大学第一 VS 東海大学附属諏訪	副審
	相手審判	笹本 拓(奈良)	
ミーティング内容		主任	平原勇次氏
<ul style="list-style-type: none"> ・誠実さがあり1つ1つ積み上げていた。見たものに関しては取り上げていた。 ・ベンチからのアピールをすべてのんでいるようだった。時には聞かないことも必要。 ・2人の協力。ショットクロックやアウトオブバウンズ、ピック&ロールへの見方。試合の情報共有 ・ゲームの出だしにもたもたしてしまっていた。ジャンプボールのやり直し。タイマーの確認 			
班別トレーニング・講義			
7月25日			
【班別トレーニング】			
①ウォーミングアップ②プレゼンテーションの確認③45°からの1対1～3対3			
【講義】			
関東男子の試合映像を見ながら現象についてディスカッションをおこなった。			
ファールとすべきなのか。どこでプレーを見て判定をするのが良いのか。について話し合いをおこなった。			
7月26日			
【班別トレーニング】			
①ウォーミングアップ②4対4【ポストアップへの対応】③サイドプレーからの4対4【SC10秒】			
④フリースローからのランジッション 1往復			

1回戦			
	期 日	7月28日	男子
担当試合	対戦カード	県立高松商業(香川) VS 飛龍(静岡)	副審
	相手審判	香野 学氏(福島)	
ミーティング内容		主任 伊藤 恒氏	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに従ってのトラベリングの判定はOK ・シュート動作のときにオフェンスが悪いときもある ・写真判定ではなく、その前の一連の流れを汲んでいくこと ・リバウンドやドライブのときにリードからのクロスコールがあった。そこをトレールに任せるか、スイッチサイドをしてよりよいアングルで判定するように。 ・2回フェイクのワーニングをしてもいいケースがあった。1回目のときにワーニングをしておけば、2回目はなかったかもしれない ・3秒を取り上げるタイミングに工夫を。パスを入れる瞬間などに ・アウトオブバウンズの協力。もしもプレイヤーと被ってしまっ確認ができれば相手レフリーに協力を求める。もしも、2人がわからなければ、ヘルドボールにすること。 ・リバウンド時にトレールが下がって横のラインを見れるようにする 			
<p>1回戦の振り返り 講師 平育雄 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2POと3POの最大の違い→人が1人少ないこと。 ・「primary coverage」→自分が受け持つマッチアップについて確認すること。 ・「angle」→角度 ドライブの途中のangleはだれがみる？プレーに対するangleをどうとるか？ ・昔「スペースをとらえる」今「レフリーディフェンス」 ・よりangleをとれる「足」が2POでは必要である。 ・ゲームマネジメントとして、処置のミスをなくすためには、「レフリー同士」のコミュニケーションが大切。 ・「cross step」プレーから遠ざからないように <p>【宇田川氏 より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクス→誰と吹いても同じようになるために必要。 ・ガイドラインを作成した理由は、より具体的に、シンプルに。Ex ハンドチェックでオートマチックなものについて オフェンスの悪い手も。 			
2回戦			
	期 日	7月29日	女子
担当試合	対戦カード	柴田女子(青森) VS 開志国際(新潟)	副審
	相手審判	嶋田 博昭氏(兵庫)	
ミーティング内容		主任 小田中 涼子氏	
<ul style="list-style-type: none"> ・点差のついたゲームだったが、大きな問題もなく全体的に良かった ・RSBQを考慮してファールコールするように。 ・ショットクロックの確認 ・ハンドチェックをもう少し取り上げたほうが良い ・スペースを見ようと細かく動いているのが良く伝わった。しかし、今はスペースを見に行くのではなく「レフリーディフェンス」ということに重きを置いて動くように。 ・プレゼンテーションに磨きを。フェイスラインでおこなうように。 			
全体の感想			
<p>今回初めて研修生としてインターハイに参加させていただきました。この1週間を通して多くの方との出会いや助言、審判する姿を見たり聞いたりしてよりよい判定をしていくために必要なことがわかった。しかし、そのアドバイス等を聞いたりしただけでは上達するはずもないので、今回の教えを胸に、今後も審判活動に励んでいきます。</p> <p>福島県バスケットボール協会、福島県高体連の方々には準備段階から大会当日まで細部にわたり配慮いただきありがとうございました。そして、貴重な機会を設けて頂いた講師の方々にも感謝申し上げます。</p> <p>最後になりますが、埼玉県協会、埼玉県高体連の皆様にも御礼申し上げます。県を代表し研修生として大会に派遣いただきましてありがとうございました。今後、県内においてはこれらの経験、情報を多くの審判員に伝えていきます。本当にありがとうございました。</p>			